



横浜市立一本松小学校

6月号

学校だより

横浜市立一本松小学校

校長 高桑 透

令和6年5月31日



横浜市西区制80周年

『子どもたちの成長を見守る』

副校長 山田 由紀子

今年度、一本松小学校に着任いたしました、副校長の山田由紀子と申します。着任して初めに感じたのは、子どもたちが明るく素直でかわいらしいということでした。また、学校や子どもたちに対する地域の温かいサポートも、いろいろな側面で感じています。そのような一本松小学校に着任することができ、とても嬉しく思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

まれにみる遅い開花の桜が満開の中、始業式・入学式が行われてから早くも2か月が経とうとしています。子どもたちにとっては新しい友達との出会いがあり、新しい教室での学習や生活が始まり、環境が大きく変化した2か月であったと思います。はじめはドキドキした様子で過ごしていた1年生も学校生活に慣れ、のびのびと過ごす様子が見られるようになってきました。入学や進学に際し、子どもたちは新しい小学校生活や新しい学年に期待や希望を抱くとともに、きっと不安も抱えていることと思います。それでも毎日、新しいことに取り組み頑張っている子どもたち。自分のもっている力を存分に生かし、自分のペースで成長して行ってほしいと思います。

さて、子どもの成長といえば、以前保護者の方からこのようなことを伺ったことがありました。「学校にあがってからはなかなか子どもの様子がわからない」というお話でした。確かに、送迎が必要で常に保護者の管理下であった園生活から一転し、小学校は子どもたち自身の力で通っていきます。私自身も、我が子が初めて小学校へ登校して行った日は、その後姿が、頼もしくありつつも、単純に「心配」という言葉では言い表せないほどの気持ちになったことを思い出します。

子どもたちは、成長とともに自分の世界を広げ、保護者の方が温かく見守る手の中から少しずつ飛び立っていきます。子どもたちはその過程で失敗することもあれば、うまくいかずに悔しい思いをすることもあるでしょう。保護者の方も先回りして失敗しないように手を差し伸べてあげたくなるかもしれません。しかし、その失敗の中からも子どもたちは確実に何かを得て、成長していきます。また、自力でやり通した経験からかけがえのない気付きも得ていきます。だからこそ、文字通り親は、「木の上に立って見守る」ことも大切なのではないのでしょうか。

小学校は1年生から6年生までの6年間という長い期間の成長を見ることができ学校です。あんなに小さかった1年生が立派な6年生になり、小さな下級生の世話をし、そして巣立っていく姿には、毎年感動を覚えます。

その一つひとつの成長すべてを学校が保護者の方にお伝えすることは難しいのかもしれませんが、それらの成長を一つでも多く見つけ、保護者の方と共有しながら、ともに喜び、悩み、一緒に子育てをしていく学校でありたいと思います。